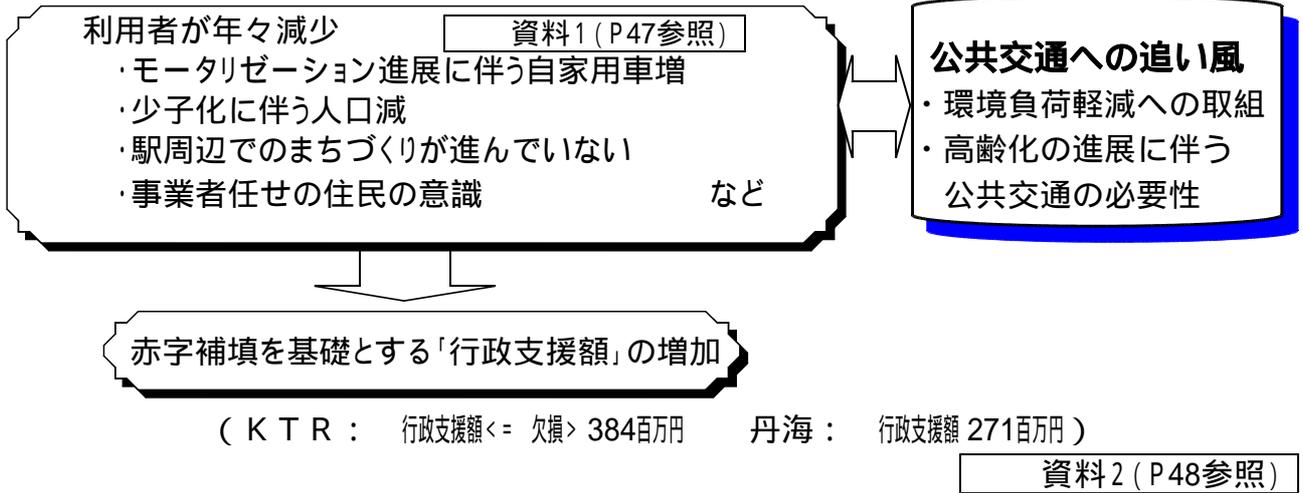


1 丹後地域における公共交通の現状と課題

(1) 現 状 (丹後地域の主な公共交通機関)

鉄 道 北近畿タンゴ鉄道 (K T R)
 (ピーク時 (H5) 303万人 H17 : 202万人)

バ ス 丹後海陸交通 (丹海バス) 加悦フェローライン、一部市町
 (丹海ピーク時 (H3) 137万人 H17 : 68万人)



(2) 課 題

ア 各事業者・沿線市町の課題 (努力にかかわらず利用者減に歯止めがかからない)
 各事業者はこれまで、住民生活上必要な路線の確保とともに、経営努力
 地域活性化の観点も含め地元でも新たな取組進行中

K T R	人件費・修繕費等の抑制 ・「増収プロジェクト」(16年 ~) ・「経営改善検討委員会」(17年、KTR・府・沿線市町)	企画商品の新規開発 (「まるごと丹後乗り放題きっぷ」等)
丹 海	経費削減 「ボンネットバス」導入による定期観光路線 (16年 ~)	
沿線市町	市町単位の企画列車 地元促進協「利用促進検討WG」(17年) ・「K T R サポーターズクラブ」(18年 3 月発足) ・「K T R に乗る日」(毎月 1 日)	リ ン ク

イ 交通ネットワークとしての機能面の課題

鉄道内や鉄道・バス間の接続が取れたダイヤ設定や、接続状況の情報等、交通ネットワーク全体の情報提供が不十分で利用者に分かりにくい。

2 改善に当たっての基本的な考え方

▶ 丹後地域における公共交通に対する基本的認識

公共交通網は、住民自身の手で守り育てていかなければならないものであることから、これらの改善は、自分たち自身が行うということを強く認識する必要があります。

また、この「分かりやすい」「使いやすい」公共交通ネットワークを実現することによって、KTRやバスは、地元住民が安心して利用できる、乗りたい、残したいものとなりますが、それは同時に、観光客にとっても利用したくなるものでなくてはなりません。

さらには、住民が、地元を愛し、地元を誇りを持ってのものにする取組でもあります。

▶ 取組の目標（趣旨）

利用者の視点に立って、鉄道やバス等の「ダイヤ」、「運賃」、「駅・停留所」、「車両」、「情報提供」といった交通システムを構成する基礎的な部分に立ち返って改善を行うことにより、すべての人にとって、「分かりやすく」、「使いやすい」面的な公共交通ネットワークを実現します。

▶ 「改善実行計画」の基本的な考え方 [第3回実現会議において確認]

失敗を恐れずに、まず、モデル的・実験的に、できるところから改善に取り組みます。公共交通を、事業者任せにせず、地元住民や行政も一緒になって自ら考え、皆で良くしていきます。

▶ 「改善実行計画」の性格

「計画」を作成することが目的ではなく、実行することが目的です。実際に取組を進めるために地元利用者、観光・商業関係者の代表の方々に、「実現会議」に御参画いただいております。

また、この「改善実行計画」は、今回提示したものが計画の最終形ではなく、今後、改善を進める中で、新たな課題が発見されれば、その課題に対する改善策を計画に追加する、あるいは、実際の取組により計画を修正することも想定しています。そして、継続的に改善を進めます。そのため、今回は計画の「中間まとめ」という形をとりました。

▶ 改善実行の進行管理

改善を実効あるものとするために、その時々利用状況を把握・分析することが必要になります。

このようなデータ収集・分析も事業者任せにすることなく、自らのこととして関心を持つことが必要であり、節目ごとに改善の進捗状況・経過の報告会や更なる課題の検証、新たな展開等を議論するための会議を、適宜開催します。